

経営発達支援計画の概要

実施者名 (法人番号)	田布施町商工会（法人番号 4250005006939） 田布施町（地方公共団体コード 353434）
実施期間	2023/04/01 ～ 2028/03/31
目標	経営発達支援事業の目標 ①環境変化にも対応できる事業継続力の強化・支援 ②地域資源や事業所の強みを活かした販路開拓支援 ③円滑な事業承継と充実した創業支援 ④事業者が抱える課題に対して柔軟に対応できる商工会職員の支援能力の向上
事業内容	I. 経営発達支援事業の内容 1. 地域経済動向調査に関すること RESAS（地域経済分析システム）を活用した地域の経済動向分析を行い、結果は管内事業所に広く周知する。 2. 需要動向調査に関すること 地域のイベント等の来場客に商品に関するアンケート調査を実施し、調査対象事業所に対してフィードバックする。 3. 経営状況の分析に関すること 各種支援機関が提供する支援ツールを活用して、分析を行い分析結果については当該事業所に対してフィードバックを行ない事業計画の策定等に活用する。 4. 事業計画の策定支援 DX 推進セミナーや IT 専門家派遣、事業計画策定セミナーを開催し、経営課題を明確にする。 5. 事業計画策定後の実施支援 事業計画を策定した事業者に対して定期的な巡回による進捗状況の確認とフォローアップを行う。 6. 新たな需要の開拓支援 DX に向けた取り組みに対する販路開拓支援や展示会等の出展によるビジネスチャンスの創出するための支援を行う。
連絡先	田布施町商工会 〒742-1511 山口県 熊毛郡田布施町 大字下田布施 8 1 4 番地 1 TEL:0820-52-2983 FAX:0820-52-2981

	e-mail:tabusechou@yamaguchi-shokokai.or.jp 田布施町 経済課 〒742-1592 山口県 熊毛郡田布施町下田布施 3 4 4 0 番地 1 TEL:0820-52-5805 FAX:0820-53-0140 e-mail:nourin@town.tabuse.yamaguchi.jp
--	--

(別表1)

経営発達支援計画

経営発達支援事業の目標

1. 目標

(1) 地域の現状及び課題

①現状

・立地

田布施町商工会の属する田布施町は町内全域が当会の管轄地域である。田布施町は山口県の南東部に位置し、東西8km、南北15km、50km²ほどの大きさを有しており、瀬戸内海に面した温暖な気候と自然豊かな環境に恵まれている。北西部は山岳地帯となっており、この山岳に源をなす、小河川が合流して田布施川となり、中央部を貫流し、南部の瀬戸内海に注いでいる。南の海上1,500mの位置に馬島という島があり、また北には田布施町の飛び地として小行司地区がある。町の中心部は田布施川がつくる平坦地で市街地をなし、JR山陽本線田布施駅を中心に道路網が四方に広がっている。気象は、温暖で降水量が少なく、日照時間の多い瀬戸内海型気候区に属している。周辺市町との関係では、柳井市、光市、平生町との通勤・通学流動が目立って多く、一体的な生活圏を形成している。



・人口

田布施町の人口は、14,483人、世帯数5,955世帯、高齢化率36.2%となっている。高齢化率は、全国平均(28.6%)、山口県平均(34.6%)を上回っており、増加傾向で推移している。2040年の人口予想数は11,897人とされており、今後、田布施町の総人口は減少傾向にあると予想されている。一方で2040年の高齢化率は39.1%と増加傾向にあると予想されている。

【人口・世帯数の推移】

	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
人口	16,217	16,287	15,986	15,317	14,483
世帯数	5,750	6,028	6,115	6,131	5,955

【高齢化率の推移】

	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
高齢化率	22.7	24.7	28.7	33.7	36.2

出典：田布施町役場 国勢調査人口・世帯数・年齢別人口構成比の推移より

・産業

I. 農林業

国営緊急農地再編整備事業の実施により、土地利用の整序化、担い手への農地の利用集積の促進、耕作放棄地の解消・発生防止とともに、農道や用排水路、ため池、排水施設などの整備が一体的に進められている。また、中山間地域等特認 9 集落に対し支援を行うことで、耕作放棄地の発生防止などの継続的な活動が維持されている。

2015 年には構造改革特別区域計画「古代の歴史ロマン薫る米どころ田布施どぶろく特区」（通称：「どぶろく」特区）を申請し、内閣総理大臣により認定されたことによって、田布施町内全域において農業者自らがどぶろくを製造する場合、数量規定の規制が緩和されている。

II. 水産業

山口県内海東部海域を主漁場とし、アジ、ヒラメ、カレイ、イカ、タコなど豊富な種類の魚介類を水揚げしているが、資産資源の減少や漁価の低迷に加え、高齢化による漁業従事者の減少とともに、漁獲量、漁獲金額も減少傾向にある。

公益社団法人山口県光・熊毛地区栽培漁業協会と連携し、中間育成・種苗放流、資源の保護増殖などを定期的に行っている。

III. 建設・製造業

建設業は小規模事業者が大半を占めており、事業所は町内に広く分散している。製造業は比較的規模が大きい中小企業が多く、多くは南部の臨海地で生産活動を行っており、独自のノウハウを有する企業が多く存在する。

IV. 商業・サービス業

大手企業の出店により、中央南地区を中心に商業集積地が形成されつつあるが、従来からある個人商店などは独自性のあるサービスや差別化を図る商品を打ち出せず減少傾向にある。また、近隣市町へのアクセスも良好なことから、町外で買い物を済ませている。

・交通

田布施町内の幹線道路は、国道 188 号及び県道が主体となっており、県道は、主要地方道が 4 路線、一般県道が 5 路線あり、周辺市町との連絡、国道へのアクセス、町内連絡と一体性の確保に大きな役割を果たしている。公共交通では、町の中心部には山陽本線田布施駅があり、バス路線は民間会社が運行する国道 188 号の 1 路線と、柳井市、平生町、田布施町の 1 市 2 町による共同運行 5 路線がある。また、馬島麻里府航路は、平成 18 年度より平生町との共同運航による馬島・佐合島航路として運行されている。

・第 6 次田布施町総合計画の引用（基本計画：令和 3 年～令和 7 年）

【基本目標】

1 子どもたちの未来が輝くまちづくり

- 2 健康で健やかなまちづくり
- 3 いのちと生活を守るまちづくり
- 4 美しく暮らしやすいまちづくり
- 5 心豊かに輝けるまちづくり

6 にぎやかで活力のあるまちづくり

- 7 計画の推進に向けて

・農林業の振興

農業経営の安定化の促進

経営を安定化するために、米以外の麦、大豆、野菜などの土地利用型作物を推進し、農業経営の複合化、作物の産地化を推進する。また、高収益作物の導入や、急速に進化する先端技術の導入について研究する。

生産、加工、販売に地域ぐるみで戦略的に取り組み、農業・農村の6次産業化、農商工連携を支援する。

・水産業の振興

経営の安定化・漁業の担い手づくり

制度資金の活用などによる省力合理化を図り、漁業の近代化を促進するとともに、経営基盤の強化に努める。安定収入の確保と快適な終了環境などの整備とともに、漁業就業希望者などへの情報提供・研修体制の整備、漁業後継者組織の強化、研修活動や交流活動などを促進し、移住者を積極的に受け入れるなど後継者の育成に努める。

・工業の振興

中小地場企業の振興

農林水産業者と商工業者がそれぞれ有する経営資源を互いに提供し、新商品・新サービスの開発などに取り組む農商工連携を支援する。また、関係組織と連携し、新たな特産品の開発に努めるとともに、直売店など関係機関と協働した売り込み強化や販路拡大の支援をする。

・商業の振興

商業・サービス業の振興

高齢者などの買物弱者の生活利便性を向上させるため田布施町社会福祉協議会と連携し買い物送迎サービス事業を行う。また、各種生活サービスや地域活動をつなぎ、各地域の生活拠点やその拠点間の交通手段を確保する「小さな拠点」づくりについて検討や支援を行う。

・観光の振興と交流人口の拡大

観光の振興

県・山口県観光連盟・近隣市町などとの連携を密にし、観光情報サイトやイベント情報誌によるPR活動を行い広域的な観光事業を推進し、観光客の誘致に努める。

交流人口の拡大

田布施町観光協会が、田布施町を応援したいというつながりを持った人々を、情報発信を通じて集め、地域の活力になるしくみづくりについて支援を行う。

②課題

・事業承継について

田布施町内の人口は減少傾向にあり、高齢化率は36.2%と全国(28.6%)、県平均(34.6%)を上回っている。町内事業所においても経営者の高齢化が進行しており、経営力の向上と将来を見据えた円滑な事業承継を行うことが課題である。

・経営基盤の強化について

ドラッグストア等の大手チェーン店の参入、町外への流出による人口減等により経営資源の乏しい小規模事業者は苦境に立たされている。そのような小規模事業者をサポートするために経営力の強化や販路開拓等の支援を行い、継続的に支援を行っていくことが課題である。

・特産品、ブランド品開発について

田布施町には「いちじく」や「いちご」といった特産品があるが、それを利用した特産品開発が進んでいない。地域資源を活かした特産品、ブランド品開発によって観光客需要や新規顧客を取り込むことが課題である。

・販売促進の強化について

事業所の魅力ある商品を展示会・商談会への出展や自社ホームページ、SNS 等を利用して町内外へ積極的に発信している事業所が少ない。IT を使った販路開拓や各種関係団体が主催する展示会への出展を促し販売力を強化していくことが課題である。

(2) 小規模事業者に対する長期的な振興のあり方

当会は地域とともに歩み、町内の小規模事業者の様々な経営課題の解決に向けて伴走型支援を行っていく。企業が元気になることで地域の活力を高め田布施町の発展に結び付くことが使命と考える。

小規模事業者を取り巻く環境は、経営者の高齢化や後継者不足、人手不足など様々な問題に直面し今後も厳しくなることが予想される。田布施町が策定した第 6 次田布施町総合計画の基本目標の 1 つに「にぎやかで活力のあるまちづくり」とあり、その計画の中で「田布施町商工会などの関係機関との密接な連携により、経営診断、アドバイザー、制度融資、信用保証制度などの積極的な活用を促進し、経営の近代化、情報化及び経営基盤の強化を推進します。」と記載されている。

田布施町の総合計画の趣旨に沿った形で、当会においては、小規模事業者の収益力の向上、日々変化する環境へ対応できるようになるための伴走型の支援を行い経営力の向上を図っていく。また、第 1 期経営発達支援計画の取り組みにおける反省点を踏まえ、事業計画策定や計画策定後のフォローアップなど持続的な発展に資する伴走型支援の強化によって持続可能な産業の発展を図っていく。

(3) 経営発達支援事業の目標

田布施町の現状と課題、小規模事業者に対する長期的な振興のあり方を踏まえ、今後 5 年間ににおける目標を以下の通りとする。

①環境変化にも対応できる事業継続力の強化・支援

経営課題を抽出し、その課題の解決のために経営者に寄り添い改善に向けた経営計画策定支援を行い、持続的な事業の発展と雇用の確保に向けた伴走型支援を実施していく。

②地域資源や事業所の強みを活かした販路開拓支援

地域資源や事業所独自の強みを活かした販路開拓支援を行い、収益力の向上を図る。その際には、展示会や物産展、商談会への出展支援を行っていく。また、IT を駆使したホームページ作成支援など IT 支援を行っていく。

③円滑な事業承継と充実した創業支援

山口県事業承継・引継ぎ支援センターをはじめとした各種関係機関と連携し、情報の共有や提供等による事業承継支援を行うことで円滑な事業承継を進めていく。また、創業支援に関しては、創業者の掘り起こしと情報提供を行うことで町内創業者数を増加させていく。

④事業者が抱える課題に対して柔軟に対応できる商工会職員の支援能力の向上

近年多様化する支援ニーズに対応できるように山口県や山口県商工会連合会等が主催する研修会やセミナー等へ商工会職員を積極的に派遣することによって個々の支援能力向上を図る。

経営発達支援事業の内容及び実施期間

2. 経営発達支援事業の実施期間、目標の達成方針

(1) 経営発達支援事業の実施期間（令和5年4月1日～令和10年3月31日）

(2) 目標の達成に向けた方針

①環境変化にも対応できる事業継続力の強化・支援

- ・商工会職員による巡回や窓口相談によって得た情報を基に、専門家派遣を活用しながら事業所が抱える課題を抽出し、課題に対する解決策の提案を行う。

②地域資源や事業所の強みを活かした販路開拓支援

- ・地域資源を活かした新商品開発を進め、展示会や商談会などへの出展支援を通じて新たな販売先の開拓を行う。
- ・DXやIT等に関するセミナーを開催し、事業や自らが情報を発信できる体制に導く。

③円滑な事業承継と充実した創業支援

- ・外部の専門家や事業引継ぎセンターを活用したきめ細かな支援を行う。
- ・事業承継後や創業後には金融支援や補助金支援等の活用を進めていく。

④事業者が抱える課題に対して柔軟に対応できる商工会職員の支援能力の向上

- ・関係団体が主催する研修会やセミナーに参加して支援能力の向上を図る。
- ・商工会データベースの活用によって支援実績の共有と支援ノウハウの蓄積を図る。

I. 経営発達支援事業の内容

3. 地域の経済動向調査に関すること

(1) 現状と課題

[現状]

当商工会では業種別に四半期ごとに「山口県商工会地域中小企業景況調査」を実施し、景況感を業種別に把握する資料として使用している。また、会員事業所を対象に「新型コロナウイルス感染症による影響」について把握するために、売上や業種ごとにどのような影響が発生したのか、自由記述による支援策の要望等について調査を実施した。

[課題]

これまでの経済動向調査は、調査結果を一部の事業所にしか提供しておらず、町内事業所へ広く周知することをしてこなかったため、田布施町商工会ホームページや会報を使った方法で広く発信していくことが課題である。また、ビッグデータ等を活用した専門的な分析ができていなかったため、国が提供するビッグデータ等を活用するなど改善した上で実施する。

(2) 目標

	公表 方法	現状	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
①地域の経済動向 分析の公表回数	HP 掲載	-	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
②景気動向分析の 公表回数	HP 掲載	-	4 回	4 回	4 回	4 回	4 回

(3) 事業内容

①地域の経済動向分析（国が提供するビッグデータの活用）

当地域において真に稼げる産業や事業者に対し、限られたマンパワーや政策資源を集中投下し、効率的な経済活性化を目指すため、経営指導員等が「RESAS」（地域経済分析システム）を活用した地域の経済動向分析を行い、当会ホームページ上で年 1 回公表する。

【調査手法】経営指導員等が「RESAS」（地域経済分析システム）を活用し、地域の経済動向分析を行う。

【調査項目】・「地域経済循環アップ・生産分析」→地域の事業者がどのように稼いでいるかを分析することで強みを明確化する。

・「まちづくりマップ・From-to 分析」→人の動きを分析して地域の滞在時間を把握する。

・「産業構造マップ」→各種産業の現状を分析して伸びている産業、下り坂の産業を把握する。

⇒上記の分析を総合的に分析し、事業計画策定支援等に反映する。

②景気動向分析

現在行っている四半期ごとの景況調査の対象事業所を拡大し 20 事業者の景気動向調査を行う。

【調査手法】経営指導員等が巡回または、郵送により配布し調査を行う

【調査対象】業種のバランスを考慮した上で地域の小規模事業者 20 社

【調査項目】業況・売上・仕入価格・客単価・利益・資金繰り・従業員数・設備投資・経営上の問題点・当会への要望等

(4) 調査結果の活用

○収集、調査、分析した結果は当会ホームページ上に掲載し、管内事業者等に広く周知する。

○経営指導員等が巡回の際の参考資料として活用する。

4. 需要動向調査に関すること

(1) 現状と課題

[現状]

小規模事業者は、需要動向に関する情報が少ない、あるいは収集できても上手く活用できないため、ビジネスチャンスを活かしきれていない。

[課題]

経営指導員等の調査・分析に留まっており、事業者に分かりやすい形で情報提供がされていなかったことから、収集したデータを事業者が活用できるよう工夫した形で提供することが課題である。

(2) 目標

	現状	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
顧客アンケート 調査事業者数	-	3 者	3 者	3 者	3 者	3 者

(3) 事業内容

○顧客アンケート調査

小規模事業者がアンケート調査を単独で実施するには困難であるため、地域で開催されるイベントや商談会出展の際の来場客に対して商工会職員がアンケート調査を実施する。後日調査結果を事業者へフィードバックすることで、商品の見た目や味等に関して更なる改良ができるように支援する。必要があれば、専門家と連携して実施する。

【調査手法】

(情報収集) 経営指導員等がヒアリングを行い、アンケート用紙へ記入する。

(情報分析) 調査結果は専門家の意見を聞きつつ、経営指導員等が分析を行う。

【サンプル数】 来場者 30 人

【調査項目】 ①回答者の属性（年齢・性別・住所）②味・見た目・食感③価格④改善点 等

【調査結果の活用】 調査結果は、経営指導員等が対象事業者に対して直接説明する形でフィードバックを行い、商品の改良に繋げる。

5. 経営状況の分析に関すること

(1) 現状と課題

[現状]

経営状況の分析については、補助金や助成金の申請時、融資相談時など限られた場面でしか実施していなかった。

[課題]

商工会の記帳システムを活用した定量的な分析に加えて、「対話と傾聴」を加えた定量的な分析も行い、事業者の有する課題の抽出を専門家等と連携して実施する必要がある。

(2) 目標

	現状	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
経営分析セミナー 開催件数	-	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
経営分析事業者数	40 者	15 者	15 者	15 者	15 者	15 者

(3) 事業内容

①対象者

定期的な巡回によって経営状況を把握している事業者や商工会の記帳システムを利用している事業者や過去に商工会が主催した研修会に参加した事業所等を対象とする。「経営分析セミナー」に関しては年 1 回開催し、チラシの作成、ホームページや会誌を利用して広く周知、巡回・窓口相談時に案内を行う。

②分析項目

小規模事業者の経営状況を把握するため、定量分析である「財務分析」と、定性分析である「非財務分析」の双方を行う。「財務分析」に関しては、直近 3 期分の収益性、生産性、安全性および成長性の分析を行う。「非財務分析」に関しては、下記項目について、事業者の内部環境における強み、弱み、事業所を取り巻く外部環境の脅威、機会を整理する。

内部環境	外部環境
・ 商品、製品、サービス ・ 仕入れ先、取引先 ・ 人材、組織	・ 技術、ノウハウ等の知的財産 ・ デジタル化、IT 活用の状況 ・ 俯仰計画の策定・運用状況 ・ 商圏内の人口、人流 ・ 競合 ・ 業界動向

③分析手法

経済産業省の「ローカルベンチマーク」、中小機構の「経営計画つくるくん」等のソフトを活用し、経営指導員等が分析を行う。

④調査結果の活用

分析結果については、当該事業所にフィードバックを行い、事業計画の策定等に活用する。また、データベース化し内部共有することで、経営指導員等のスキルアップに活用する。

6. 事業計画策定支援に関すること

(1) 現状と課題

[現状]

事業計画策定については、融資の相談時、補助金や助成金の申請時に支援を行ってきた。近年においては、支援施策が充実してきたことによって、事業計画策定に関する支援ニーズは増加傾向にある。

[課題]

小規模事業者による支援ニーズは増加しているが、策定支援後のフォローアップが十分でなく、策定したがうまく実行できていない、事業者だけでは実行が困難で支援を要していることから継続的な支援を実施していくことが課題である。

(2) 支援に対する考え方

- ①新たな販路開拓と円滑な事業承継に関する事業計画の策定を重点的に支援する。
- ②5. で経営分析を行った事業者の7割程度/年の事業計画策定を目指す。
- ③DXへの取組は、ITの専門家を活用する。
- ④補助金や助成金の申請を契機として経営計画の策定を目指す事業者の中から、実現可能性の高いものを選定し、事業計画の策定につなげていく。

(3) 目標

	現状	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
①DX 推進セミナー	-	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
②事業計画策定セミナー	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
事業計画策定事業者数	30 者	10 者	10 者	10 者	10 者	10 者

(4) 事業内容

①「DX 推進セミナー・IT 専門家派遣」の開催

DX に関する意識の醸成や基礎知識を習得するため、また実際に DX に向けた IT ツールの導入や Web サイト構築等の取組を推進していくために、セミナーを1回/年開催する。

【支援対象】IT の導入をしているが DX まで至っていない事業所、今後 DX に向けた IT ツールの導入を検討している事業所等。

【募集方法】チラシを作成し商工会ホームページで広く周知、巡回や窓口相談時に案内する。

【講師】IT の専門家等

【セミナー（カリキュラム）】

- ・DX 総論、DX 関連技術（クラウドサービス、AI 等）や具体的な活用事例
- ・クラウド型顧客管理ツールの紹介
- ・SNS を活用した情報発信方法
- ・EC サイトの利用方法等

セミナーを受講した事業者の中から取り組み意欲の高い事業者に対しては、経営指導員等による相談対応・経営指導を行う中で必要に応じて IT 専門家派遣を実施する。

②「事業計画策定セミナー」の開催

小規模事業者が事業計画を策定する重要性を認識し、計画の立案から改善までの一連のプロセスを実行し、経営課題を明確にする。

【支援対象】事業計画の策定により持続的な発展に意欲のある小規模事業者を対象とする。

【募集方法】チラシを作成し商工会ホームページで広く周知、巡回や窓口相談時に案内する。

7. 事業計画策定後の実施支援に関すること

(1) 現状と課題

【現状】

事業計画の策定に重きを置いていたことで策定後のフォローアップが十分できている状況になかった。

【課題】

補助金申請や融資相談等の事業者に対しては、フォローアップができていますが計画的な訪問ができていないため、四半期ごとに計画的にフォローアップを実施していくことが課題である。

(2) 支援に対する考え方

事業計画の策定を行ったすべての小規模事業者を支援の対象とするが、事業計画の進捗状況や事業者の課題、売上や利益率の状況等により、訪問回数を増やして集中的に支援すべき事業者と、ある程度順調と判断し訪問回数を減らしても支障ない事業者を見極めた上で、フォローアップを行う。

(3) 目標

	現状	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
フォローアップ 対象事業者数	16 者	10 者	10 者	10 者	10 者	10 者
頻度（延回数）	92 回	40 回	40 回	40 回	40 回	40 回
売上増加 事業者数	-	4 者	4 者	4 者	4 者	4 者
利益率 3%以上 増加の事業者数	-	3 者	3 者	3 者	3 者	3 者

(4) 事業内容

事業計画を策定した事業者を対象とし、経営指導員等が四半期に 1 度、巡回による事業者へのヒアリングを行い、策定された計画が着実に実行されているかフォローアップを行う。なお、進捗状況と事業計画との間にズレが生じている場合、外部の専門家による第三者の視点を投入し、当該ズレの発生要因及び今後の対応方策を検討の上、フォローアップ頻度の変更等を行う。

8. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

(1) 現状と課題

[現状]

田布施町には、魅力的な商品があるにも関わらず、町内や県内での販売に留まっている商品が多くある。事業者単独での地域外消費者への需要動向の確認や、販路開拓のための物産店出展は費用の負担が大きいことから、商工会では伴走型支援事業を活用して、「地方銀行フードセレクション」への出展をサポートし販路開拓に寄与してきた。

DX に関しては、セミナーによる講習会を開催したが、「高齢化」「知識不足」等の理由により、IT を活用した販路開拓等の取り組みが進んでおらず、地域内の限られた範囲に留まっている。

[課題]

町内事業所で県外に販路を拡大するほどの生産体制を備えた事業所が限られている。また、自社で設備（ロット）の関係から大口での注文対応が難しくビジネスチャンスを喪失している。各種補助金等の周知を行い設備機器の更新のため支援が必要である。

今後、新たな販路の開拓には DX 推進が必要であるということを経営者、商工会全職員の間で理解・認識してもらい、取り組みを支援していく必要がある。

(2) 支援に対する考え方

モノはできても営業力が弱く、販売に結び付いていない事業者やモノは作れても販路のない、あるいは地域等で限定されている事業者に対して、他県や首都圏で実績を上げている展示会や商談会等への出展をめざす。出展にあたっては、商工会職員・専門家が事前・事後の出展支援を行う。

DX に向けた取り組みとして、ホームページ等の作成、SNS による情報発信、EC サイトの利用等、IT 活用による営業・販路開拓に関する相談対応を行い、必要に応じて IT に詳しい専門家派遣等を

実施する。

(3) 目標

	現状	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
①B t o B 地方銀行 フードセレクション 出展事業者数	2 者	3 者	3 者	3 者	3 者	3 者
成約総件数	2 件	10 件	10 件	10 件	10 件	10 件
②B t o C 山口ぶちうま物産展 出展事業者数	－	2 者	2 者	2 者	2 者	2 者
売上額／者	－	20 万円	20 万円	20 万円	20 万円	20 万円
③B t o B ビジネスドラフト やまぐち 参加事業者数	－	1 者	1 者	1 者	1 者	1 者
成約件数／者	－	1 者	1 者	1 者	1 者	1 者
④SNS 活用事業者	－	3 者	3 者	3 者	3 者	3 者
売上増加率／者	－	10%	10%	10%	10%	10%

(4) 事業内容

次のような展示会等に経営指導員等が帯同で参加し支援する。参加企業にはそれぞれ目標をもって参加してもらえようサポートをおこなう。

①地方銀行フードセレクション（BtoB）

地方の金融機関が主催。毎年 11 月の 3 日間にわたり、全国から食を扱う食品バイヤーが訪れ全国への販路開拓のチャンスがある。述べ約 3,000 名が来場し、300 社を越える出展ブースがある。

②山口ぶちうま！物産展（BtoC）

山口県商工会連合会が主催。毎年 1 月～2 月の 2 週間開催される。隣県の広島県広島市本通りに所在する「ひろしま夢ぶらざ」における対面販売と陳列販売が行われる。山口県内の地域産品が約 180 品、山口県内の事業者約 30 者が出展を行い、出展者が直接販売を行う。

③ビジネスドラフトやまぐち（BtoB）

取引先や販路拡大等新たなビジネスチャンスを希望する事業者に対して、県内商工会議所・商工会経由で開催されている事前調整型の商談である。過去の実績で、エントリー企業数は約 300 社ある。双方が合意した場合はより効果的な商談となるように商工会、専門家による事前支援を行う。

④SNS 活用（BtoC）

現状の商圈が近隣の市町に限られている事業者が多いことから、販路拡大のため、より効果的な SNS を活用し、宣伝効果を向上させるための支援を行う。また、DX に関する支援も同時に行っていく。

Ⅱ．経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

9．事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

（１）現状と課題

〔現状〕

毎年１月を目途に中小企業診断士、田布施町役場経済課、商工会商業部会長、商工会工業建設業部会長、商工会三役から構成される「経営発達支援計画評価会議」を開催している。経営発達支援事業の実施状況について、評価委員から評価・見直し等の提言を受け、その結果を総代会の資料として公表している。

〔課題〕

評価会議が事業実績と成果の報告に留まっていることから、翌年の改善案を事業実施に落とし込めるように改善する必要がある。

（２）事業内容

①経営発達支援事業を効果的に実施するため、毎年１月を目途に経営発達支援事業評価委員会（中小企業診断士、田布施町役場経済課、商工会商業部会長、商工会工業建設業部会長、商工会三役、法定経営指導員）を開催し、事業の進捗状況等を報告し成果や見直し案などの意見・情報交換を行う。

②事業の成果や評価、見直しの結果については、理事会へ報告し承認を得る。

③結果については、田布施町商工会のホームページ（<https://www.tabusechou.jp/>）に掲載し地域の小規模事業者等が常時閲覧可能な状態にする。

10．経営指導員等の資質向上に関すること

（１）現状と課題

〔現状〕

当会職員（経営指導員１名、補助員１名、記帳専任職員１名）については、山口県主催のセミナーや山口県商工会連合会主催の研修会に積極的に参加し、支援能力の向上に努めている。

〔課題〕

経営全般に対する幅広い知識の習得や全職員が共通して有すべき専門的な能力の養成、多様化する支援ニーズへの対応に関して不十分であり、支援ノウハウを組織内で共有する仕組みが不十分である。

事業所に対して支援を行う、DX 化に関する知識の習得に職員間でばらつきがあり、支援能力の強化を図る必要がある。

（２）事業内容

事業者を支援するに当たって商工会職員の対話と傾聴力の習得・向上を図る必要があるため、以

下の講習会や研修会等に積極的に職員の派遣を行う。

①職員個別の支援能力向上のため各種関係団体が開催する講習会や研修会等の受講

- ・ 山口県商工会連合会

役職に応じた「事務局責任者等研修会」

経営指導員、補助員、記帳専任職員の職務に応じた「職員支援能力強化研修会」

県下商工会の支援事例を共有する「経営支援事例発表大会」

全役職員を対象とした DX・IT に関する研修会への参加を行う。

- ・ 中小企業基盤整備機構

数日～約 1 ヶ月の間、職場を離れて支援スキル・提案力等の向上を目的とする「税務・財務入門、商業診断基礎 等」への派遣を行う。

②各種支援機関との連携による職員の支援ノウハウの習得

- ・ 山口県よろず支援拠点、山口県事業引継ぎセンターなどの中小企業支援機関と連携を強化する。
- ・ 専門家派遣時やセミナー開催時に商工会職員を同席することで、専門家の実際の支援ノウハウを習得する。

③職員の支援成果をデータベース化し支援能力の向上

・ 各職員が実際に経営支援を行った際は、基幹システムに情報を入力し経営カルテとして管理する。会員に対して行った成果物（事業計画書、決算関係等）は、共有サーバーで管理し、各事業所の状況について各職員が随時情報共有できるようにすることで支援能力の向上に繋げていく。

④職員全体の支援能力向上を目的とした定期ミーティングの開催

・ 講習会、研修会を通じて得た最新の情報や年度中に新しい事業が入った際は全職員で情報共有を行い、全職員が各自対応できるように平準化を行う。

(別表2)

経営発達支援事業の実施体制

経営発達支援事業の実施体制

(令和4年11月現在)

(1) 実施体制（商工会又は商工会議所の経営発達支援事業実施に係る体制／関係市町村の経営発達支援事業実施に係る体制／商工会又は商工会議所と関係市町村の共同体制／経営指導員の関与体制 等）

田布施町商工会 法定経営指導員 1名 補助員 1名 記帳専任職員 1名	田布施町役場 経済課
---	---------------

(2) 商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律第7条第5項に規定する経営指導員による情報の提供及び助言に係る実施体制

①当該経営指導員の氏名、連絡先
二見 和弥 田布施町商工会 TEL：0820-52-2983

②当該経営指導員による情報の提供及び助言
経営発達支援事業の実施・実施に係る指導及び助言、目標達成に向けた進捗管理、事業の評価・見直しをする際の必要な情報の提供等を行う。

(3) 商工会／商工会議所、関係市町村連絡先

①商工会／商工会議所
〒742-1511 山口県熊毛郡田布施町下田布施8 1 4 番地 1
田布施町商工会
TEL：0820-52-2983 / FAX：0820-52-2981
E-mail：tabusechou@yamaguchi-shokokai.or.jp

②関係市町村
〒742-1592 山口県熊毛郡田布施町大字下田布施3 4 4 0 番地 1
田布施町役場 経済課
TEL：0820-52-5805 FAX：0820-53-0140
E-mail：nourin@town.tabuse.yamaguchi.jp

(別表 3)

経営発達支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度
必要な資金の額	2,350	2,350	2,350	2,350	2,350
○ 専 門 家 派 遣 費	800	800	800	800	800
○ 協 議 会 運 営 費	50	50	50	50	50
○ セ ミ ナ ー 開 催 費	200	200	200	200	200
○ チ ラ シ 作 成 費	100	100	100	100	100
○ 展 示 会 等 出 展 費	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
会費収入、田布施町補助金、山口県補助金、各種事業収入 等

(備考) 調達方法については、想定される調達方法を記載すること。

(別表 4)

経営発達支援計画を共同して作成する商工会又は商工会議所及び関係市町村以外の者を連携して経営発達支援事業を実施する者とする場合の連携に関する事項

連携して事業を実施する者の氏名又は名称及び住所 並びに法人にあっては、その代表者の氏名	
連携して実施する事業の内容	
①	
②	
③	
・	
・	
・	
連携して事業を実施する者の役割	
①	
②	
③	
・	
・	
・	
連携体制図等	
①	
②	
③	